

## 従来の会計給与システムを刷新し コストを抑えながら 業務の大幅な効率化を実現



『SMILE V』を利用することで、標準機能だけで経理業務を大幅に効率化させた

平和食品工業株式会社は、業務用のカレーとラーメンスープの2本柱で事業を拡大し、現在では家庭用の製品も数多く提供している。同社は長年運用していた会計、給与システムを『SMILE V 会計／人事給与』へと切り替えることで、導入・運用コストを抑えると同時に経理業務を大幅に効率化した。これまで複数処理が必要だったCSVデータの作成作業はワンクリックで完了する迅速な運用が可能となり、毎月定例的に発生する仕訳伝票も、あらかじめ設定したスケジュールに沿って金額入力するだけで作業が終了するなど、顕著な導入効果を実感している。

### 導入の狙い

- ・会計給与システムの費用抑制
- ・煩雑な経理業務の効率化

### 導入システム

- ・基幹業務システム  
『SMILE V 会計／人事給与』
- ・開発ツール  
『SMILE V Custom AP Builder (CAB)』

### 導入効果

- ・CSV出力作業がワンクリックで完了
- ・定型の仕訳作業が金額入力するだけの簡単作業に
- ・出力パターン利用により帳票出力の手間を削減
- ・仕訳ルール設定による仕訳伝票精度の向上

### USER PROFILE

平和食品工業株式会社

【業種】食品製造業

【事業内容】カレー、ラーメンスープ、調味料などの製造・販売

【従業員数】130名(2022年11月現在)



2022年11月取材

## 業務用カレーなどで事業を拡大 現在は家庭用商品の販売にも注力

平和食品工業株式会社は、1931年に「金鶏（キンケイ）」ブランドでの即席カレー製造から始まり、戦時中は、横須賀海軍の指定工場として発展した。1947年に法人化して金鶏商會を設立、1971年に「平和食品工業」へと改称し、現在に至る。現在は、東京都世田谷区等々力の本社を中心に、大阪営業所と仙台市の東北営業所、埼玉県の草加工場と坂戸工場の5拠点で事業を展開する。

カレーとラーメンスープを中心とした業務用調味料の製造・販売を通じて、日本全国のレストランやラーメン店のプロの味づくりを陰で支えている同社。近年では家庭向け商品の取り扱いも増えており、2021年には公式オンラインショップを開設した。2022年11月に発売した「等々力咖喱」をはじめ、「純咖喱粉（ジュンカリーコ）」や「ゴールドクック」など豊富な商品を取り揃えている。

総務部 主任の三由 裕樹氏は、「当社の製品は、ハイオリジナルのナショナルブランドと、食品メーカーやスーパーにOEM提供するプライベートブランドの2つに大きく分かれます。最近ですと、本社所在地である等々力をイメージした「等々力咖喱」を発売したり、希少な香辛料である馬告（マーガオ）を使用したスパイスシーズニングがテレビ番組で紹介されました。アウトドア需要もあって評判になっています」と語る。

## 『SMILE V 会計／人事給与』で 従来の業務課題を解消

2007年から他社の会計給与システムを長年利用していた平和食品工業では、近年三由氏が中心となって社内業務のIT化推進を始めていた。しかし、業務改革を推進するうえで大きな課題を二つ抱えていた。一つは、既存のシステムを更新するにはハードウェアとソフトウェアのセット購入が必要というこ



主力商品である業務用カレーの他、スパイスなど調味料の開発などにも力を入れている

と。初期費用とランニングコストの負担は膨大なものであった。

「もう一つの課題は、同システムが当社の企業規模には過剰ともいえる機能を持つため、サーバーに求められるスペックが極端に高かったことです。さらに、スクラッチ開発した販売管理システムと連携するために、入金処理や支払処理のカスタマイズで別途数百万円の費用が必要でした。このようにコスト増の要因が多いことから、社内の業務基盤として継続的に運用していくことは難しいと感じていました」（三由氏）

そこで、同システムの保守契約が切れるタイミングで、新システムへの移行検討を開始した。複数社のシステムを比較検討する中で最終的に選定したのが、『SMILE V 会計／人事給与』だった。選考の際には、機器貸出により約2か月かけて機能や操作方法を確認し、質疑応答の場を設けたという。

主な選定理由は大きく四つ。

「まず大きかったのは費用です。初期費用が旧システムの6割程度

と、候補となったシステムの中で最も抑えることができました。二つ目は、オプションが充実していたことです。他社製品ではカスタマイズとなる機能もオプションで柔軟に対応できるというのは大変魅力的でした」（三由氏）

仮にカスタマイズを実施すると、その部分はバージョンアップの機能の対象外となり、システム更新の都度カスタマイズ対応が必要となる。しかし、オプションであれば、将来的なバージョンアップにも影響がなく、費用を抑えられるという利点がある。

「三つ目は、人事管理と資産管理機

総務部 主任  
三由 裕樹氏

「今回のシステム構築により、導入・運用コストを抑えながら経理業務の生産性を大幅に改善しました。今後は自動実行機能などを幅広く活用して、さらなる業務効率の向上に努めていきます」



能の充実です。社員の役職の推移や家族構成が変わっても履歴をしっかりと残して管理できるのは便利です。また、現在Excelで別途管理している生産設備などの固定資産情報が、SMILE上で一元管理できるようになれば、経理業務の負担は大きく軽減されると期待しています」(三由氏)

そして四つ目の理由は、操作画面の見やすさだという。「以前のシステムは、メニュー画面の文字が小さくて扱いにくかったのですが、SMILEは最初のメニュー画面から次へ次へと表示されるメニューが変わっていく流れなので、操作が分かりやすいです。画面のデザインもカラフルなので、以前の淡白な画面に比べてとても見やすくなりました」(三由氏)

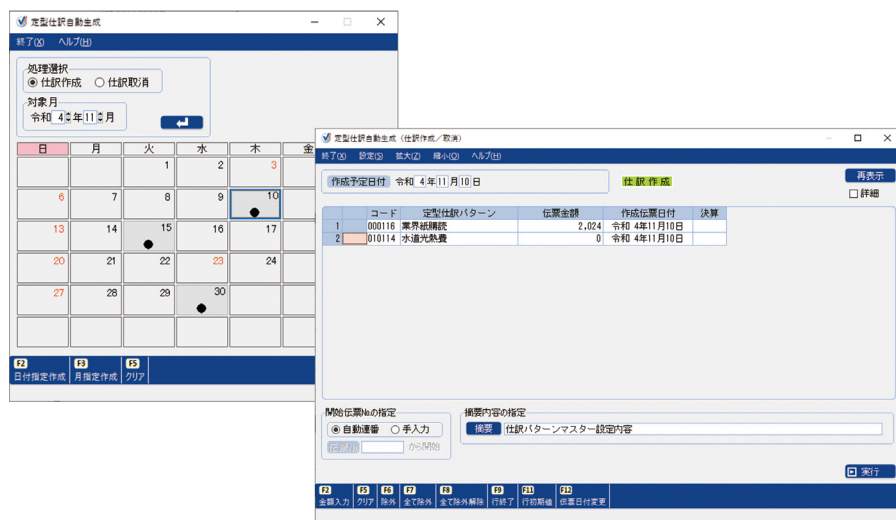
### 必要最低限のデータ移行で 新システムの早期運用を実現

2019年7月の新システム稼働に伴い、旧システムからデータ移行作業を行っている。その際に、過去データ全てを移行対象とするのではなく、2019年度の決算に必要なデータのみとした。『SMILE V 会計』は、期首から実稼働前月まで、『SMILE V 人事給与』については、同年1月からのデータを対象とすることで早期運用を実現したのだ。

スクラッチ開発の販売管理システムとの連携は、入金や支払いデータをCSVに出力して『SMILE V 会計』に取り込む運用とした。

「旧システムからのデータ移行作業は、以前からお世話になっているシステムベンダーの総合システムプロダクツさんにサポートしていただきました。短期間でスムーズに実施できて助かりました」(三由氏)

システム刷新を機に本社にサーバーを設置し、社内ネットワークを通じて本社と2カ所の工場で利用できる環境を整えた。その際、工場側の負担を軽減するために、一部業務の見直しも行っている。



『SMILE V 会計』の定型仕訳自動生成機能により、毎月実施する仕訳作業の漏れを削減

「以前は、工場でも支払いと経費の仕訳伝票を作成していましたが、現在は仕訳作業については本社側で一括作成する体制に切り替えています。工場ではExcelに会社名や金額を入力するだけなので、業務負担が軽減され、チェック作業も簡単になりました」(三由氏)

『SMILE V 人事給与』については、アマンの勤怠管理システムとデータ連携を行うことによって給与計算の自動化を実現している。

### 新システムの標準機能で 経理業務の大幅な効率化を実現

平和食品工業では、新システムの標準機能を効果的に使いこなすことで、従来の課題を解消しながら、業務効率を著しく向上させている。

「旧システムでは、CSV出力機能はあるものの、必要情報だけを出力することができなかったため、非常に手間がかかっていました。まず検索結果の画面をハードコピーして、そちらを見ながらExcelに手入力をするという手間のかかる作業でした。その点、『SMILE V』には、CSV出力機能が実装されているので、会計仕訳の検索結果をワ

ンクリックでExcelに取り込めます。大変便利になりました」(三由氏)

さらに毎月発生する仕訳伝票については、起票を忘れないようにExcelで一覧表を作成してチェックする運用を行っていたという。こちらにも、『SMILE V 会計』の定型仕訳自動生成機能を利用して、起票忘れ防止に役立っている。「例えば、毎月10日は家賃の仕訳伝票作成と設定しておけば、その日が来ると作成すべき伝票が表示されて、金額確認だけで完了します。対象となる定型伝票は月10枚ほどですが、管理が楽になりました」(三由氏)

損益計算書や貸借対照表の出力においては、対象期間や出力条件の指定が都度必要となる。しかし『SMILE V』の帳票条件パターンの使用で、それらの指定も不要となった。

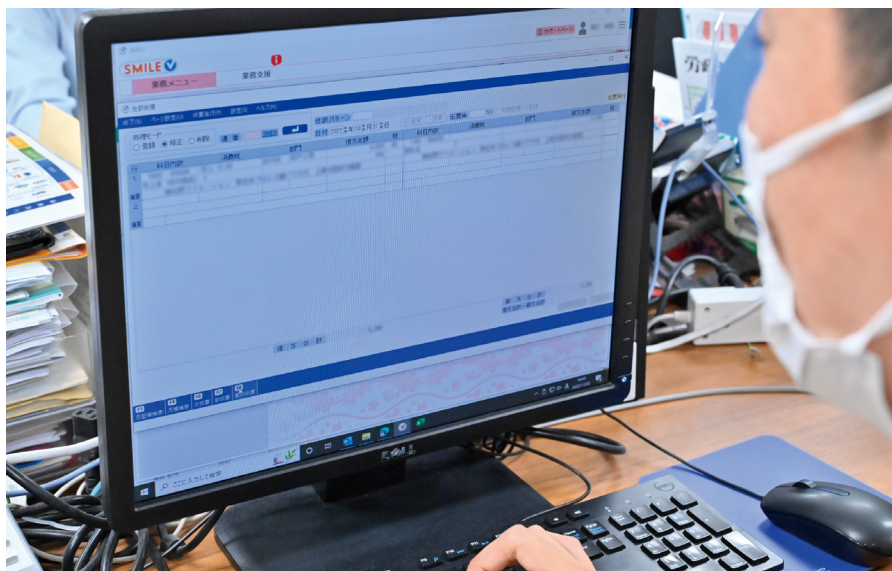
「仕訳ルールの設定機能も大変便利に使っています。本社と工場では水道光熱費の科目を別コードで管理しているのですが、間違えて起票されてしまうことも多くて、そういったチェック作業の負荷がばかにならなかったのですが、『SMILE V 会計』では、設定したルールと異なる仕訳を行うと警告メッセージが表示されるので、即座

## 平和食品工業株式会社

に対処できます。また、各仕訳伝票の更新回数を確認して、更新が多い仕訳は間違えやすい内容、と判断してルールに加えていくことで仕訳の精度も向上しました」(三由氏)

このほかにも、会計年度を切り替えずにデータ検索が行えることも、使いやすさ気に入っているという。

今後は、開発ツール『Custom AP Builder(CAB)』を活用することで、使いやすい画面配置や帳票作成、経営分析といった業務改善ができるのではと期待している。現時点でどの商品が売れているのか、あるいはどのくらい経費がかかっているのか、といった数字データをCABのExcel出力機能や自由検索機能を用いて一目で分かるようにグラフ化していきたいとも考えている。CABを簡易BIツールとして活用しながら業績アップにつなげていくつもりだ。さらに『SMILE V』の自動実行機能を利用して、毎月発生する定例作業をできるだけ人手を介さずにシステムで処理できれば、業務のさらなる効率化に繋がると計画している。「電子帳簿保存法に対応するため、統合型グループウェア『eValue』のドキュメント管理やワークフローの導入も検討しています。今後もOSKの製品を効果的に活用してデータ連携やシステム運用の省力化を図りつつ、企業競争力を高めていきたいです」(三由氏)



「SMILE V 会計」では設定したルールと異なる仕訳を行うと警告メッセージが表示されるため、チェック作業の手間が省ける

平和食品工業は、既に次のステップを見据えた行動を始めている。



平和食品工業株式会社のホームページ

<https://www.heiwa-food.co.jp/>

お問い合わせ

・会社名、製品名などは、各社または各団体の商標もしくは登録商標です。  
 ・事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は取材当時のものであり、配付される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。  
 ・この記載内容は2022年11月現在のものです。  
 Copyright©2023 OSK Co., LTD. All Rights Reserved.

株式会社OSK  
 マーケティング本部

〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1  
 TEL:03-5610-1651 FAX:03-5610-1692  
<https://www.kk-osk.co.jp/>